今月のトピックス

特集

会社訪問 -No.60
コイデ陸運株式会社　様

安全性向上やドライバーの待遇改善を着実に推進 次世代の変革に向けた対応を図る

市原市に本社を構えるコイデ陸運㈱（小出等代表取締役社長）は、ローリー車による化学品輸送を中心とする運送会社である。創業社長である父親、２代目社長である兄から経営を受け継いだ３代目の小出社長は、同社のもつ独自性や強みを活かした輸送サービスに長年磨きをかけてきた。
「物流の 2024 年問題」や「物流の 2030 年問題」などに直面し、トラック運送事業者のあり方が大きく変わりつつある中で、小出社長は取引先からの多彩なニーズに応えながら、大変化に対応できる運送会社への変革に力を入れている。

白地に青のグラデーションカラーが新鮮な印象を与える同社のトラックの前で笑顔を見せる小出社長

■ドライバーは「サービス業」であるべき 経営基本方針を掲げて意識改革を促す

コイデ陸運㈱の歴史は、昭和 33 年に小出商店として創業したことから始まる。当時は、埋め立てに使用される土砂の運搬や、養殖した海苔の販売・配送などを手がけていたが、昭和 42 年頃からは平ボデー車を導入して薬品や瓦の輸送を行うようになった。その後、京葉工業地域が拡大するにつれて、ローリー車による苛性ソーダや塩酸などの化学品輸送が中心となっていった。
化学品の多くが毒劇物や危険物であることから、荷扱いや輸送に当たっては細心の注意が要求される。同社ではドライバーに、高圧ガスを輸送する際に必要となる高圧ガス移動監視者の資格や、消防法で第４類危険物に指定されている引火性液体を扱う際に必要となる危険物取扱者乙種４類の資格などを取得させている。また、ある化学品がタンクに残った状態で別の化学品を混入させてしまうと、化学反応を起こしてしまい、運送事故に至ってしまう場合もあることから、同社では輸送する化学品について、もし別の化学品と混じり合ってしまった場合にどのような反応を起こすのか検証する実験を行うなど、化学品に対する知識を深め、混入事故の未然防止を図っている。さらに、輸送中に化学品を漏えいさせてしまった場合には環境破壊に繋がりかねないことから、漏えい発生時の対応などについても指導を徹底している。
一方で、タンクローリーのタンク上部で作業を行う際の墜落・転落事故も避けなければならない。同社では、荷主企業に申し入れを行い、高所作業用の作業台を設置してもらい、同社のドライバーは作業台を使用して荷役作業を行うように改善している。
同社における事故防止対策としては、20 年ほど前から全車両にデジタルタコグラフやドライブレコーダーを装着。毎月 10 日に実施する「安全会議」では、ドライブレコーダーの映像等をもとに意見交換を行うほか、DVD や YouTube の映像なども活用してドライバーの安全意識を高めている。また、同社では作業のマンネリ化防止の観点から、年に１回全ドライバーを対象とした添乗指導を実施。運行中は助手席に管理者が同乗して指導を行うほか、荷扱い作業の際にはドライバーがしっかりと確認作業を行っているか、また指差し呼称を適切に実施しているかなどを確認するようにしている。
さらに、同社では毎年４月に、全ドライバーが安全輸送実現に向けての個人目標を宣言。同社営業所の壁面に掲出し、各ドライバーが個人目標の達成に向けて取り組みを進めているという。
さて、同社では「物流の 2024 年問題」解決とドライバーの待遇改善の実現に向けて、３年ほど前から取引先に対して果敢に運賃交渉を進めてきた。その結果、標準的運賃に近い額の運賃・料金を収受できている取引先が６割ほどに達しているほか、一部の取引先からは燃料サーチャージも収受できているという。

小出　等
代表取締役社長

「『物流の 2024 年問題』を前に、３年ほど前から取引先との話し合いを続けてきました。今後、高齢化と若年層の減少によってドライバーの数が大幅に減少することが予測される『物流の 2030 年問題』解決に向けて、取引先に対して毎年交渉を継続させてほしいと訴えているところです」（小出社長）

適正運賃・料金の収受を背景に、同社では従業員の満足度アップに繋がる処遇改善にも力を入れている。同社では 20 年ほど前に年功序列制度の廃止に乗り出し、ベテラン従業員と若年従業員の賃金格差解消を進めてきた。それとともに、従業員の努力や成果に応じた賃金制度を導入。現在では、営業所のモニター画面で各ドライバーの売上額や経費などを確認できるようにしており、従業員のモチベーションアップに繋がっているという。
ローリー車のドライバーは手荷役作業がほとんどないこともあり、年配者や女性も活躍できる環境が整っている。現在同社では、68 歳のベテランドライバーが仕事を続けているほか、女性ドライバーも５人在籍している。一方で、ドライバーがいつまでも元気に働き続けるためには、ドライバーの健康管理が欠かせない。同社では年２回定期健康診断を実施しているほか、睡眠時無呼吸症

同社は多くのローリー車を保有し、化学品輸送などにあたっている

事故防止対策に力を入れている同社では、日々の点呼を通じて安全意識高揚を図っている

「『笑顔』を喜びとする会社」を企業理念とし、取引先に対して心のこもったサービスを提供する

候群（SAS）や脳 MRI に関する検査も実施している。また、以前同社に勤めていたドライバーが、勤務時間外に心筋梗塞を発症して亡くなったことがあったため、同社では会社費用負担で、死亡原因の上位を占める三大疾病（がん、心筋梗塞、脳卒中）に備えるための医療保険に全員加入させており、従業員本人だけでなくその家族の安心にも繋がっている。

そして、同社ではドライバーの拘束時間削減も進めている。かつては、取引先からの受注締め切り時刻を輸送前日の午前 10 時までと定めていたが、取引先との交渉を進め、リードタイム確保の観点から受注締め切り時刻を前々日の 10 時までとすることができた。これにより、ドライバーの時間外労働削減に繋がったという。さらに、長距離輸送からの撤退を進めてきたほか、取引先に対して高速道路利用を訴えるなどの取り組みも進めている。

「ローリー車のドライバーはもともと荷待ち時間が比較的少ないのですが、『物流の 2024 年問題』解決に向けてはさらなる輸送の効率化によるドライバーの時間外労働削減が求められてきました。物流の効率化に向けた取り組みは当社だけでできるものではなく、取引先の理解があって初めて可能となるものです。『物流の 2024 年問題』を機に、取引先の理解が進んできているように感じています」（同）

さて、同社は小出社長の父親が叔父とともに立ち上げた会社で、その後叔父は建材業の会社を経営していた。また、同社は小出社長の兄が経営を受け継いでいた。小出社長は当初運送の仕事に就くことは考えておらず、違う仕事をしたいと考えていたこともあり、専門学校卒業後、叔父が経営する会社に在籍していた。その後、28 歳で同社に入社した小出社長は、タンクローリーの仕事を行いながら、先代社長（兄）とバス会社や介護タクシー会社などを立ち上げるなど業容拡大を図ってきた。先代社長が市原市議会議員になったのを機に、小出社長は平成 16 年に同社の 3 代目社長に就任。それ以前から経営者としての仕事もこなしていたこともあって、社長就任の際の抵抗感はなかったという。

小出社長は社長就任に際して、「経営基本方針」（別掲）を新たに策定した。これは、道路貨物運送に対する荷主企業からのニーズが大きく変わりつつある中で、小出社長は「ドライバーはただ荷物を運べばいいというものではなく、『サービス業』であるべき」と考え、ドライバーの意識改革に繋げるために策定したものである。

経営基本方針

▶一、創造性に富、情報豊かな、優れたコミュニケーションオーガナイザーとして、お客様の期待と信頼にこたえる。
▶二、明るく、活力に満ちた、革新的な企業風土を確立する。
▶三、一人ひとりの能力が最大限に発揮できる、生きがいある職場の形成と、知的資産の蓄積をはかる。
▶四、総力を結集し、ネットワークを活かして、市場の開拓と新規事業の開発を行う。
▶五、広い視野で未来をとらえる。高感度プロフェッショナル集団を目指す。

「運送事業者は、サービス業として取引先からの信頼を獲得し、困った時には何でも相談に乗ってもらえる『ビジネスパートナー』である必要があると考えています。当社としても、同業他社にはない独自の輸送サービスの提供に力を入れるとともに、それに対応できるだけの様々な車両を保有し、取引先からの要望に応えてきました。こうした努力を怠っていては、『取引先との交渉』というステージに立つことはできないのではないでしょうか。トラック運送業界にはこれからの 5 年ほどで、これまでにないほどの大きな変革が押し寄せると考えています。トラック運送事業者のあり方が大きく変わっていく中で、事業を継続していくためには、これまでに築き上げてきた当社の価値観を大事にしながら、今後予想される大変化に対応できるようにしていく必要があります。私は現在 60 歳を迎えましたが、当社のもつ独自性や強みを次世代に引き継いでいくために、経営者の世代交代なども含めて準備を進めているところです」（同）

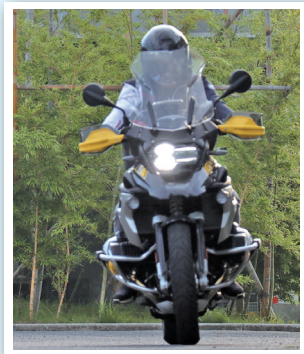
ホットにゅーす

■複雑な運転操作が求められる大型バイク 友人とのツーリングが楽しみに

小出社長の趣味は、友人とのバイクツーリングである。

トラック運送業界と関わりのない、気の許せる仲間たちとともに、愛車である排気量 1600cc の大型バイクに跨り、北は秋田や山形、南は九州まで足を伸ばし、ご当地ならではのグルメに舌鼓を打つのが楽しみだという。

「バイクは、右手・左手・右足・左足でそれぞれ違うレバーやペダルを操作しながら運転します。複雑な運転操作が要求されるだけに、とても操作しがいのある乗り物だと感じています」（同）



愛車に跨り、鮮やかな緑の中を疾走する小出社長

企業プロフィール
コイデ陸運株式会社
代表取締役社長　小出　等
本社　千葉県市原市岩崎 839-8
従業員　48 人（うちドライバー 44 人）
台数　57 台